

## 1 趣旨

施設更新に伴う過大投資を防ぎ、更新事業費の縮減を図るため、「(仮称)施設更新・耐震化長期計画」の策定にあたっては、給水実績や将来の安定給水のために必要かつ適切な更新規模を検討する。

## 2 現状

千葉県工業用水道の現状は、別表のとおりで、全地区合計の給水能力は約 1,151 千 $\text{m}^3$ /日、契約水量は約 1,086 千 $\text{m}^3$ /日、最大給水量は約 904 千 $\text{m}^3$ /日、平均給水量は約 772 千 $\text{m}^3$ /日である。

(別表) 千葉県工業用水道の現状(平成 24 年度末現在) (単位:m $^3$ /日)

	給水能力	契約水量	最大給水量	平均給水量
地区名	現時点での 給水可能な施設能力	受水企業と 契約している水量	H20~H24 年度の 最大値	H20~H24 年度の 平均値
東葛・葛南地区	127,200	105,215	74,690	56,882
千葉地区	121,200	121,200	93,650	85,133
五井姉崎地区	401,760	396,221	324,688	299,292
五井市原地区	120,000	116,810	95,030	70,682
房総臨海地区	172,800	141,697	123,419	95,557
千葉関連 4 地区計	815,760	775,928	636,787	550,664
木更津南部地区	206,000	204,700	191,947	164,365
北総地区	1,600	535	548	282
計	1,150,560	1,086,378	903,972	772,193

## 3 施設規模の考え方

契約水量の供給義務及び新規需要への対応、さらに安定給水を考慮し、修繕等により現在の給水能力を維持しつつ、更新する施設については、受水企業のピーク時の水利用に支障をきたさないよう、原則として最大給水量を確保する施設規模で検討する。

なお、更新事業の実施にあたっては需要見込みも考慮し、必要かつ有効な施設規模を検討する。

## (参 考)

上記の「施設規模の考え方」、各施設の実態及び安定給水等を踏まえると、一例として千葉関連4地区の考え方は次のとおりである。

千葉関連4地区とは、千葉地区・五井市原地区・五井姉崎地区及び房総臨海地区の4地区であり、4地区の給水能力は815,760 m<sup>3</sup>/日で最大給水量の実績は636,787 m<sup>3</sup>/日となっている。

千葉関連4地区は、改築工事や事故等により給水不能となった場合において、応援給水を行えるよう各地区の管が接続されている。

今後、施設の老朽化により更新及び補修等の工事を実施する場合、長期において応援給水の必要性が生じることが見込まれる。

その際、応援給水を可能とするため、最大給水量を上回る施設についても、修繕や補修等で延命化を図ることにより現給水能力を確保する。

### ※ 過去の応援給水の事例

- ① 五井市原地区の山倉ダム耐震補強工事の約3年間は、ダムの貯水が不可能なことから取水口から浄水場まで約3万m<sup>3</sup>/日しか送水できないため、不足分約4万m<sup>3</sup>/日を他地区から応援給水した。
- ② 現在、補助事業にて五井姉崎地区の送水管の布設替え工事（PIP）を実施しているが、この工事の際、五井姉崎地区は送水量に約7万m<sup>3</sup>/日が不足することとなり、房総臨海地区からの応援給水により対応している。
- ③ また、房総臨海地区においても、トンネルの劣化状況の調査を実施する際に3万m<sup>3</sup>/日しか送水できないため、他地区からの応援給水により不足分を補っている。